

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	国際学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 毎年度、教授会にて理念・目的について懇談し、その確認を行う。 なお、懇談内容については継続性を保つために記録をとり、次年度以降の懇談時に参考資料とする。	→ 1. 指標：当該年度における教授会での懇談（理念・目的について）の有無  評価基準：（当該年度に）実施した・・・評価A、実施しなかった・・・評価D	A	/	/	/
2011年度以降に設定した「目標」	→	/	/	/	/
	→	/	/	/	/

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ ● 理念・目的を設定している ○ 理念・目的を設定していない (理念・目的) 「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的を実現するために、「問題発見解決能力」、「多文化共生能力」、「倫理的価値観」、「言語コミュニケーション能力」を養成する。 (説明) 2010年開設に伴い文科省に提出した設置届出書の設置の趣旨から、理念・目的を設定した。
★ 小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 周知・公表している ○ 周知・公表していない (説明) 学生に対しては、「履修の手引き」に国際学部の教育として「国際学部で学ぶということ」「カリキュラムの基本理念」を掲載している。また、社会への公表としては、ホームページに「国際学部とは」と題する理念・概要を掲載、受験生向け大学案内、学部読本、入学試験要項に教育研究上の理念・目的を掲載している。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ ● 検証している ○ 検証していない (説明) 毎年度、教授会にて理念・目的について懇談し、その確認を行う。なお、懇談内容については継続性を保つために記録をとり、次年度以降の懇談時に参考資料とする。以上を目標としており、2011年4月教授会にて実施した。
その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価  
 卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】  
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】  
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率  
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率  
 理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数  
 理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	学則上に学部の理念・目的を掲載した。
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	2011年4月教授会にて、学部の理念・目的について懇談し、その確認を行うことができた。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	次年度に向けて、学部の理念・目的から、学位授与の方針（ディプロマポリシー）を設定する。
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	教授会の懇談としては、理念・目的について教授会構成員が年度初めに確認することができた。ただし、その適切性についての議論があまり深まらなかったため、次年度は予め執行部で論点を整理した上で懇談を行う。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

その他 (自由記述)	
---------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### ＜評価専門委員会の評価＞

##### 【学外委員】

○学部の理念・目的に沿ったディプロマポリシーの設定が期待されます。

##### 【学内委員】

○国際学部の理念・目的を記されていますが、HPの内容 ([http://www.kwansei.ac.jp/s\\_is/s\\_is\\_003384.html](http://www.kwansei.ac.jp/s_is/s_is_003384.html)) との齟齬があります。その齟齬の解消が必要と思われます。

○適切な記述です。

○理念・目的を教授会で2011年4月の教授会で懇談されたことは評価されます。また、根拠となる記録を作成されたことも重要なことです。

##### 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

###### ○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

###### ○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

###### ○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ ○次年度報告までに、国際学部の理念・目的と、HPの内容 ([http://www.kwansei.ac.jp/s\\_is/s\\_is\\_003384.html](http://www.kwansei.ac.jp/s_is/s_is_003384.html)) を一致させる。